

大阪体育大学診療所における5年間の活動報告

稲葉聡¹⁾・森北育宏・前島悦子・
古屋桂子¹⁾・道塚加余子¹⁾・西川由衣¹⁾・橋口超¹⁾

2020年11月30日受付 2021年1月7日受理

A Clinical Report for the last 5 years at the
Osaka University of Health and Sport Sciences Clinic

Satoshi Inaba, Ikuhiro Morikita, Etsuko Maeshima,
Keiko Furuya, Kayoko Michizuka, Yui Nishikawa, Suguru Hashiguchi

要旨

大阪体育大学診療所は保健室業務だけではなく、保険診療が可能な施設である。また、酸素カプセルの利用サービスも行なっている。2015年4月1日から2020年3月31日の期間に利用した者は延べ41,482名であった。内訳は、保健室業務の利用者が14,454名、外来患者が22,546名、酸素カプセル利用者が4,482名であった。また、5年間の学年別外来患者は、1回生が4,654名、2回生が5,174名、3回生が5,220名、4回生が2,839名であった。さらに5年間の学年別酸素カプセル利用者は、1回生が1,055名、2回生が1,225名、3回生が1,147名、4回生が889名であった。月別利用者の検討では8月の利用者が最も少なかった。また、1回生の酸素カプセル利用者が4月から7月にかけて増加していた。大阪体育大学診療所の利用者は多いことが明らかとなったが、授業が行われていない期間にもサポートが可能であることや新入生に診療所で行なっているサポートを周知する必要があると考えられた。

キーワード: 大阪体育大学診療所, 利用者, 保健室業務, 保険診療, 酸素カプセル

I. はじめに

大阪体育大学診療所(以下、本診療所)は、従来行っていた保健管理施設の役割に加えて保険診療が可能な診療所として2007年に設立された。本診療所における診療部門は、整形外科、内科およびリハビリテーション部門(以下、リハビリ)で構成されている。また、酸素カプセルの利用サービスも行っており、多角的に競技者、学生、教職員の健康保持・増進を図ることが可能な施設となっている。

本診療所の現在の体制は、整形外科医1名、内科医1名、看護師2名、理学療法士1名、事務2名が常勤で勤務しており、これに非常勤の整形外科医と診療放射線技師が加わる。本診療所は午前8時30

1) 大阪体育大学診療所

分から午後5時まで利用可能である。保健室業務の利用可能日は、月曜日から金曜日の全日と土曜日の午前中である。また、授業期間中の外来診療に関しては、月曜日の午後、水曜日の午後、木曜日の午前、金曜日の午後に整形外科の診察が行われ、内科は火曜日と水曜日の午前に行われ、リハビリは月曜日から金曜日の全日で可能となっている。さらに酸素カプセルの利用可能日は、月曜日から金曜日の全日である。

全国大学保健管理協会の第一種会員は505校あり、その内、近畿地方部会に所属する大学は107校である¹⁾。この107校の中で整形外科の保険診察を行っているのは本診療所を含めてわずか4校であり、内科の診療を行っているのは15校である。しかし、外来でリハビリを行っているのは本診療所のみである。本診療所が保健室業務だけではなく診療業務を行うことによって、学生の健康面に対する支援が、より充実して行うことが可能となった。

厚生労働省の調査によれば、診療所の1日当たりの平均患者数は36～43名²⁾と報告されているが、本診療所は大学のキャンパス内に設置されていることから学生および教職員が利用しやすいという利点があり、異なる結果となることが考えられる。また、大阪体育大学（以下、本学）の学生数は約2,800名であるが³⁾、課外活動としてスポーツを実施している学生が80%以上と多く⁴⁾、整形外科やリハビリの外来診療、酸素カプセルの利用に需要があることが考えられる。

そこで本診療所の過去5年間の利用者数と利用者の特徴を報告する。

II. 本診療所の利用状況

2015年4月1日から2020年3月31日（2015年度から2019年度）の5年間における保健室業務の利用者および外来患者、酸素カプセルの利用者は延べ41,482名であった。

年度別の利用者は2016年度が延べ10,076名と最多であり、2018年度が延べ6,324名と最小の利用者であった（図1）。

月別の検討では5月と6月が延べ5,000名以上と利用者全体の13%を占めるのに対して、8月は全体の3%、2月と3月はそれぞれ全体の4%の利用者であった（図2）。

大阪体育大学診療所における5年間の活動報告

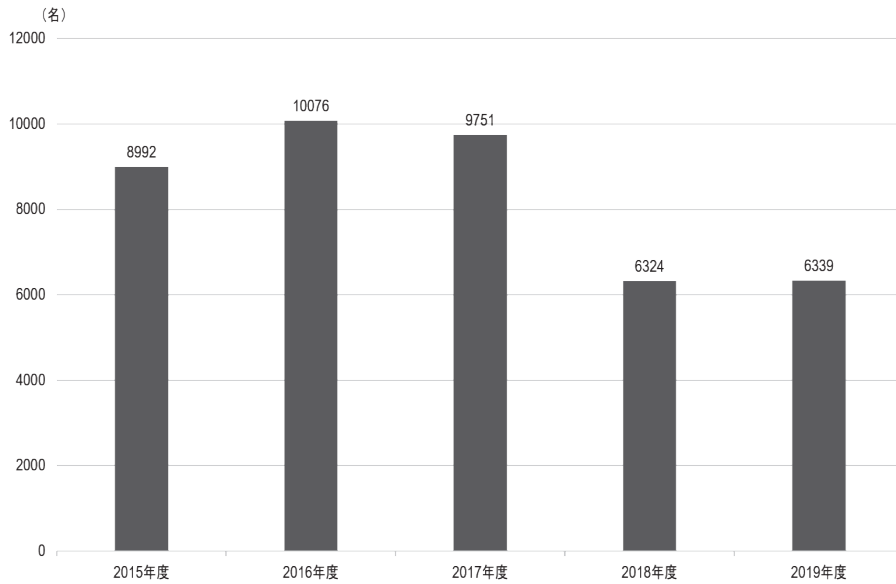


図1. 利用者の年度別推移

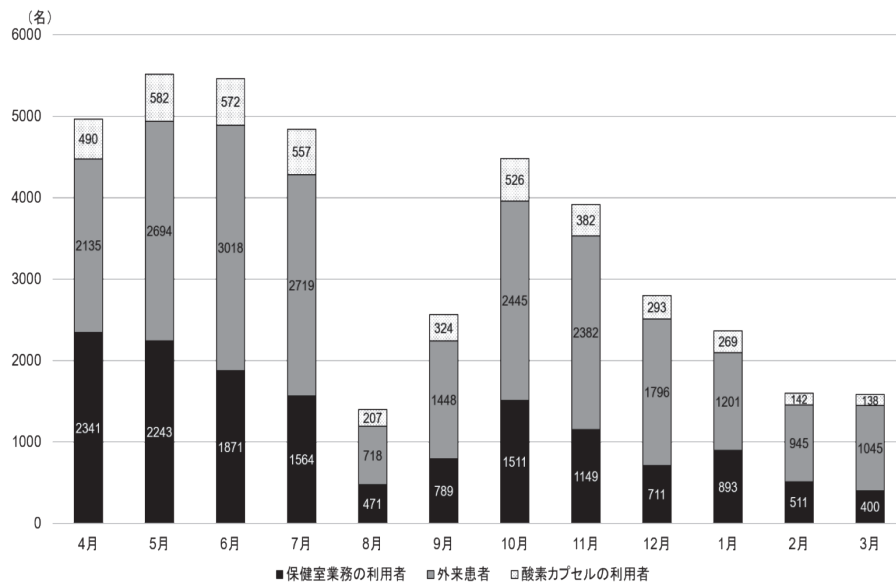


図2. 5年間の利用者の月別推移

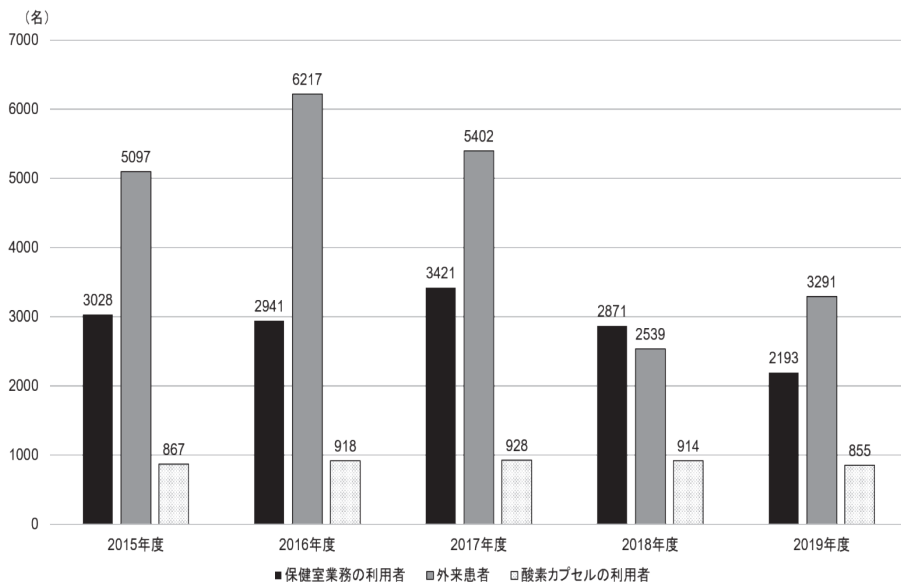


図3. 各利用者の年度別推移

Ⅲ. 保健室業務の利用状況

2015年4月1日から2020年3月31日（2015年度から2019年度）の5年間における救急処置や静養対応等で利用した者を保健管理施設の記録用紙より集計を実施した。

5年間の保健室業務の利用者は延べ14,454名であった。利用者が最多であったのは2017年度で延べ3,421名であった。一方、利用者が最小であったのは2019年度で延べ2,193名であった（図3）。また、月別の検討では4月の2,341名が最多の利用者であったのに対して、年度末である3月は延べ400名と最小の利用者であった（図4）。

Ⅳ. 外来の利用状況

2015年4月1日から2020年3月31日（2015年度から2019年度）の5年間における外来患者について、診療記録を用いて外来患者と学年別外来患者の集計を実施した。外来患者の集計には、整形外科や内科の受診だけでなく、リハビリのみの受診者も含めた。

なお、2018年度以降、整形外科の休診が増加しており、診察日数が少なくなっていた。

5年間の外来患者は延べ22,546名であった。2016年度は延べ6,217名と最多で、2018年度は延べ2,539名と最小であった（図3）。また、月別の検討では6月の延べ3,018名が最多で、8月の延べ718名が最小であった（図5）。

5年間の学年別外来患者の検討では、2回生と3回生はそれぞれ延べ5,174名、延べ5,220名だったのに対し、1回生は延べ4,654名、4回生は延べ2,839名と4回生が最も少ないという結果であった（表1）。

大阪体育大学診療所における5年間の活動報告

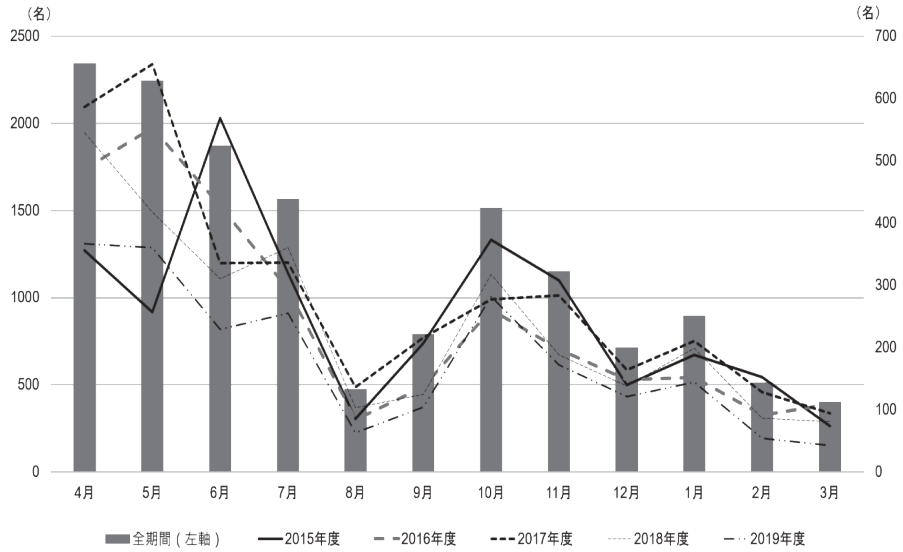


図4. 保健室業務の利用者推移

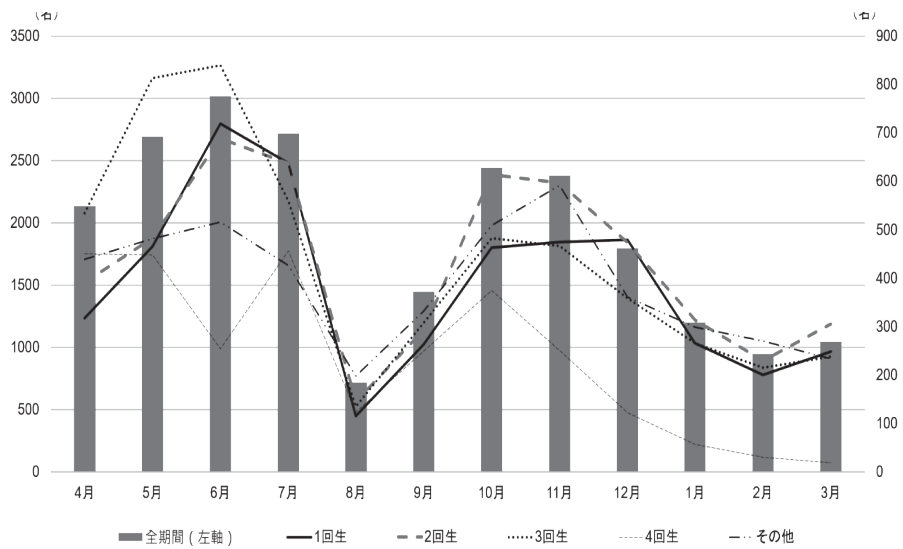


図5. 外来患者の月別推移

表1. 外来患者の分布

	1回生 (名)	2回生 (名)	3回生 (名)	4回生 (名)	その他 (名)
2015年度	1163	1010	1284	635	1005
2016年度	1463	1315	1548	723	1168
2017年度	1025	1334	1261	635	1147
2018年度	353	496	473	478	739
2019年度	650	1019	654	368	600
合計	4654 (20.6%)	5174 (22.9%)	5220 (23.2%)	2839 (12.6%)	4659 (20.7%)

V. 酸素カプセルの利用状況

2015年4月1日から2020年3月31日（2015年度から2019年度）の5年間における酸素カプセルの利用状況について、酸素カプセル利用記録を用いて全体の利用者と学年別利用者の集計を実施した。なお、COVID-19の影響によって調査期間である2020年3月4日から2020年3月31日は酸素カプセルの使用は禁止となっている。

5年間の酸素カプセル利用者は延べ4,482名であった。利用者が最多であったのは2017年度の延べ928名であったのに対して、最小であったのは2019年度の延べ855名であった（図3）。また、月別の利用者の検討では5月が延べ582名と最多であったのに対して、3月は延べ138名と最小であった（図6）。

学年別の酸素カプセル利用者については、2回生が5年間で延べ1,225名と最多であったのに対して、4回生は延べ889名と最小であった（表2）。また、1回生においては、4月から7月にかけて右肩上がりに利用者が増大していた（図6）。

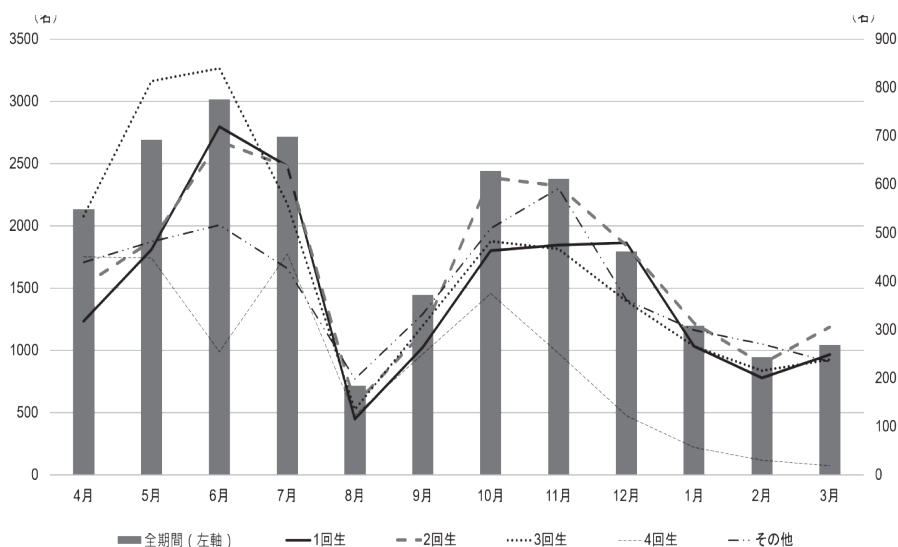


図6. 酸素カプセル利用者の月別推移

表2. 酸素カプセル利用者の分布

	1回生 (名)	2回生 (名)	3回生 (名)	4回生 (名)	その他 (名)
2015年度	198	235	211	189	34
2016年度	301	248	189	150	30
2017年度	212	277	228	176	35
2018年度	212	268	242	151	41
2019年度	132	197	277	223	26
合計	1055 (23.5%)	1225 (27.3%)	1147 (25.6%)	889 (19.8%)	166 (3.7%)

VI. 今後の課題

保健室業務と診察業務を有する他大学における2018年度の利用者は4,550名と報告⁵⁾されているのに対して、本診療所の利用者は5年間で41,482名(約8296名/年)であったことから、利用者が多いことが明らかになった。しかし全期間を通して、8月、2月、3月の利用者が少ない傾向にあった。これは、授業が行われていない長期休暇時の診察時間の短縮と診察回数が少ないことが一因と考えられるが、長期休暇時にも本診療所がサポートを行なっていることを、学生が熟知していない可能性があると考えられた。また1回生の外来患者が少ないことや、1回生における酸素カプセル利用者が4月から7月にかけて右肩上がりに増加していることから、入学時に本診療所で受けることができるサポートに関する情報が新生入生に十分周知されていない可能性が考えられた。

今後さらに本診療所における可能な学生サポートを学内に周知する必要があると考えられた。

【参考文献】

- 1) 公益財団法人 全国大学保健管理協会ホームページ
〔<http://health-uv.umin.ac.jp/kaiin/index.html>〕 最終検索日2020年11月28日
- 2) 小松大介 (2017) 診療所経営の教科書 第2版. 日本医事新報社.
- 3) 大阪体育大学ホームページ 情報公開
〔<https://www.ouhs.jp/wp/wp-content/uploads/5-3-4.pdf>〕 最終検索日2020年11月28日
- 4) 大阪体育大学 学生委員会 教学部学生支援 (2019) 平成30年度 学生生活実態調査 報告書. 大阪体育大学, 29.
- 5) 桃山学院大学学生支援課保健室 (2019) 保健室年報 第23号. 有限会社セイコー印刷.